

「私のお寺の仏婦活動」

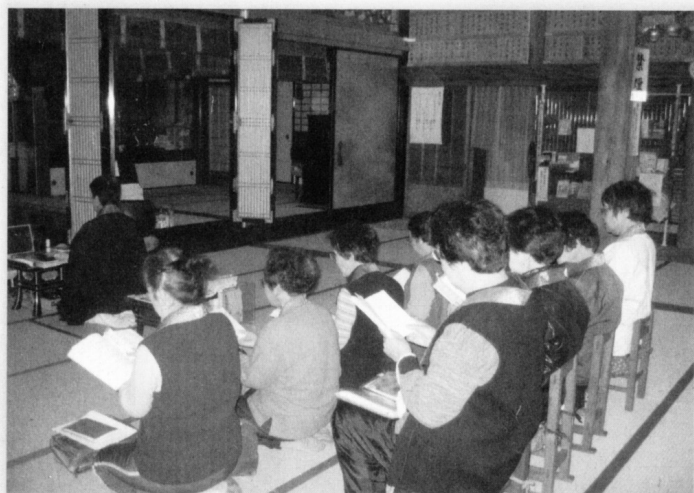


日根組 明覚寺

赤井啓子

朝五時三十分、親鸞さま、おはようございます。今日も来させてもらってよかった、ありがとうございます。これから活動が始まります。

本願寺さまに念佛奉仕団で行き、十回の表彰を頂いた方は三人。また、津村別院さまのいろいろな行事、他寺のご法座、九月一日から



ご門徒のみなさんといっしょにおつとめ。

二泊三日の大阪教区仏教婦人会から鹿児島のかくれ念仏に参加させて頂きました。その節は役員さま方にはいろいろとご配慮してくださいましてありがとうございます。また、ご院さまが平成十二年一月一日より、お朝事・お夕事のおつとめを始めますとおっしゃってくださいってから早や九年十ヶ月になり、たくさんのお経、正信偈から三部経まで習得させて頂きました。朝記帳して百回になれば、「報恩修行之証」をもらいます。もう六千六百回以上の人もいます。お参りだけではもったいないと清掃する事になり、親鸞さまの平生業を大切にして、「南無阿弥陀佛と呼んでおれば、きつと光となって先に届いてくださっているんや。感謝と有り難い気持ちでいっぱいやなあ」と話しています。このみ教えこそ聖人さまの根本的教えと問い聞きながら、大きなお慈悲の中で生かされている全ての縁に喜びと希望が湧いて来ます。如来さまは私の生活の柱です。人生は旅である。私はまだまだお念佛が足りない、一座でも多く佛法に遇い、お聴聞をこの身でさせてもらって、六字のお名号にささえられながらお浄土に帰りたいと心より思っています。

ナモアマミダブツ ナモアマミダブツ 合掌

平成 23(2011)年 3 月 1 日発行 大阪教区仏教婦人会連盟通信 第 31 号

ぶっふメール P.25-26